

# R5年大豆栽培農事メモ 第3号 (里のほほえみ版)

令和5年7月20日  
白山石川営農推進協議会  
石川県農業共済組合  
松任市農業協同組合

## 1 生育状況

管内の里のほほえみの開花盛期は、7月25日頃と予想されます。

培土を終えたほ場等では生育が旺盛になっており、より多くの水分が必要な状況となっています。

梅雨明け以降、高温・多日照や急激な降雨など、変化の激しい気象が続いています。このため気象の変化に注意し、ほ場の状態にあった管理(かん水・排水)を実施してください。



里のほほえみ エンレイ

## 2 早急に培土と追肥を実施しましょう！

生育量を確保するため、一発肥料を用いていない圃場では2回目の培土と追肥を速やかに実施しましょう。(葉色が薄い場合は特に積極的に実施)

播種区分	培土・追肥時期	追肥(肥料名、施用量)
6月播種	7月末まで	硫安 10kg/10a または NK17号 12kg/10a

## 3 高温乾燥時や強風時は、うね間かん水を実施しましょう！

開花期(7月中下旬)～莢伸長期(8月上・中旬)にかけては干害の影響を受けやすく、圃場の乾燥が続くと着莢数が減り減収します。

今後、晴天が続く、5日以上連続で降雨がなく、うね間が白く乾いたら、葉が裏返る前に早めにうね間かん水を実施しましょう。

うね間かん水は、地温の低い夕方から早朝にかけて行いましょう。

うね間かん水を円滑に実施するため、うね間のつなぎや排水溝等の点検を行い、入排水がスムーズにできるようにしましょう。



## 4 除草対策・除草剤の散布により雑草の発生を抑えましょう！

※いずれの除草剤も大豆にかかると枯れるため、注意して散布して下さい。

除草剤名	適用雑草名	使用時期 [収穫前日数]	10a 当たり使用量 (希釈水量)	散布方法	使用回数
バスタ液剤	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫28日前まで]	300~500 mL (100~150L)	雑草茎葉散布	3回以内
プリグロックSL	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 (草丈30cm以下) [収穫3日前まで]	600~1000 mL (100~150L)		4回以内
ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫前日まで]	200~500 mL (通常散布50~100L) (少量散布25~50L)		2回以内

## 5 的確な防除で収量・品質向上に努めましょう！

里のほほえみには、ウコンノメイガや葉焼病が発生しやすく、子実肥大期の葉の損傷による充実低下がおきやすいので、初発時の薬剤防除を的確に行ってください。



### (1) 粉剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a 当たり 使用量	対象病害虫名	使用回数
1回目	開花期～幼莢期	7月25日 ～30日	Zポルドー粉剤 DL [ - ]	3 kg	紫斑病	-
			スミチオン粉剤 3DL [収穫21日前まで]	4 kg	カメシ類	4回以内
2回目	子実肥大初期	8月16日 ～20日	トライトレボン粉剤 DL [収穫14日前まで]	3 kg	紫斑病、カメシ類、 マメシクイガ	2回以内
3回目	子実肥大後期	8月27日 ～9月5日	トレボン粉剤 DL [収穫14日前まで]	4 kg	カメシ類、ハスモンヨトウ マメシクイガ フタジヒメハムシ	2回以内
随時	開花期～幼莢期 (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	ダントツH粉剤 DL [収穫7日前まで]	4 kg	ウコンノメイガ	3回以内
	子実肥大後期 以降	カメシ類多発時	スタークル粉剤 DL [収穫7日前まで]	3 kg	カメシ類	2回以内

### (2) 液剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	希釈倍数 (10a 当たり 使用量)	対象病害虫名	使用回数
1回目	開花期～ 幼莢期	7月25日 ～30日	Zポルドー [ - ]	500 倍 (100~300L)	紫斑病、葉焼病 斑点細菌病	-
			カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	4,000 倍 (100~300L)	カメシ類、ハスモンヨトウ ウコンノメイガ	2回以内
2回目	子実肥大初期	8月16日 ～20日	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]	1,000 倍 (100~300L)	カメシ類、ハスモンヨトウ マメシクイガ フタジヒメハムシ	2回以内
3回目	子実肥大後期	8月27日 ～9月5日	スタークル液剤 10 [収穫7日前まで]	1,000 倍 (100~300L)	カメシ類	2回以内
随時	開花期～幼莢期 (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	プレバソフフロアブル5 [収穫7日前まで]	4,000 倍 (100~300L)	ウコンノメイガ	2回以内
	子実肥大後期 以降	ハダニ 初発時	ニッソラン水和剤 [収穫7日前まで]	2,000 倍 (100~300L)	ハダニ類	2回以内
	子実肥大後期 以降	カメシ類多発時	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]	1,000 倍 (100~300L)	カメシ類、ハスモンヨトウ マメシクイガ フタジヒメハムシ	2回以内



農薬・除草剤の使用では、使用基準を守り適正に使用し、周囲への飛散に注意するとともに、作業は熱中症予防のため、特に暑い日は無理をしない！

## 5 的確な防除で収量・品質向上に努めましょう！



里のほほえみには、ウコンノメイガや葉焼病が発生しやすく、  
子実肥大期の葉の損傷による充実低下がおきやすいので、  
初発時の薬剤防除を的確に行ってください。



### ドローンを用いた防除体系

	生育ステージ	使用時期 の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a 使用液 量 ／倍率	対象病虫害	使用 回数
1 回 目	開花終期	7/25～30	混) アミスター-20フロアブル [収穫7日前まで]	0.8 ㍓ 16～24 倍	紫斑病	2 回 以内
			混) カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	0.8 ㍓ 32 倍	カメムシ類 ハスモンヨトウ、ウコンノメイガ、ハダニ類	2 回 以内
2 回 目	子実肥大初期	8/16～20	トレボンエアー [収穫14日前まで]	0.8 ㍓ ／8 倍	ハスモンヨトウ、カメムシ類 マメシクイガ	2 回 以内
3 回 目	子実肥大後期	8/27 ～9/5	スタークル液剤 10 [収穫7日前まで]	0.8 ㍓ ／8 倍	カメムシ類、ダイズサヤマバエ	2 回 以内
随 時	開花期～幼莢期 (7月下旬～ 8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	フレバソフロアブル5 [収穫7日前まで]	0.8 ㍓ 16～32 倍	ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、 マメシクイガ、材タバコガ	2 回 以内
随 時	子実肥大期後期 以降	ヨトウ カメムシ 多発時	トレボンエアー [収穫14日前まで]	0.8 ㍓ ／8 倍	ハスモンヨトウ、カメムシ類 マメシクイガ	2 回 以内



農薬・除草剤の使用では、使用基準を守り適正に使用し、周囲への飛散に  
注意するとともに、作業は熱中症予防のため、特に暑い日は無理をしない  
ようお願いします